

## D-1 家族関係の発展に関する研究 —基礎理論と研究方法について—

東京家政学院大家政 ○黒田 淑子  
恵泉女学園短大 小牧百合子

**基礎理論** 人間の関係的存在を基本におく「関係弁証法」の立場から、家族関係発展の法則的事実に関する理論的考察を進め、関係発展の関係枠を明確にする。〔家族集団の内・外的認識に基づく発展の関係枠〕集団内個人の発展(家族成員の創造的人格の形成)、内集団関係の発展(家族集団内の人間関係の三者关系的、多者关系的発展)、外集団関係の発展(家族集団と外集団—学校、職場、地域、社会の総合的発展)〔生活状況における諸関係の発展の関係枠〕自己との関係の発展、人との関係の発展、物との関係の発展

**研究方法** 理論即実践の立場で、科学的変革的人間研究を進めるための方法論の確立をめざし、行為法の原理と技法を活用した研究方法について考究する。〔研究方法論〕研究活動の参加者全員が関係内存在者として、研究の主體的役割を担い、変革促進的態度がとれる。今、ここで、新しく関係発展の状況がつくられるなかで、実践即研究即訓練の可能な研究が展開する。その他。〔研究の展開〕1)実践研究Ⅰ…実践から理論へ問題発見的法則発見的の研究。可能性の開発。2)実証研究…仮説検証的研究。理論と技法の体系化。3)実践研究Ⅱ…変革・発展のための技法化、テスト化。実践活動の促進、新しい可能性の開発。〔研究方法の分類〕(1)質問紙法(2)参加観察法(3)行為法—心理劇、実際の展開例をもとに、各研究方法の位置づけを行ない、さらに新しい展開のしかたの可能性を発見する。